

厚生労働委員会の質疑

桜前線は、此のところの暖かさにつられて東北地方まで進みました。日本で一番早い開花となった都心では花吹雪の舞う中、暖かな日差しを浴びながら薄着で街行く人たちの姿も目につきます。

春の訪れとともに、フィギアスケートの浅田真央選手が引退を表明、12日の記者会見では21年間のスケート人生を振り返り、真央ちゃんスマイルとともに記者の質問に応じていました。国民的ヒロインの26歳の若さでの引退は寂しい限りですが、新たな人生での活躍を応援していきたいと思います。

さて、国会は3月末に平成29年度政府予算が成立し、現在、国会提出法案の審議など、それぞれの委員会において議論が本格化しています。参議院の厚生労働委員会においても、日切れ扱いの「雇用保険法等の一部を改正する法律案」の可決に続いて、昨年の通常国会に提出されて以降、衆議院において継続審議とされてきた「臨床研究法案」が可決しました。

私は、4月4日及び4月6日の厚生労働委員会において質問の機会を得て、薬局・薬剤師や医療関連産業を取り巻く最近の課題等について、政府の考えを質しました。

4日の委員会での一般質疑では、かかりつけ薬剤師・薬局を評価する新たな事項の導入などの診療報酬改定の影響について問うとともに、旧国立病院や旧国立大学付属病院等が施設内に保険調剤薬局を誘致するという動きについて、具体的な事例を示しつつ、本来あるべき医薬分業の姿を目指し率先して取り組んでこられた厚生労働大臣のお考えを伺い、「厚労省が示した薬局ビジョンは、患者本位に薬剤師・薬局が機能し、地域包括ケアシステムの重要なプレーヤーとして、住民の健康づくりに資するのが一番大事であり、地域でのかかりつけ薬剤師・薬局を大事にしていく制度にしなければならないと思っています。門内と院内は趣旨としては余り変わらないということであり、公的な病院には医療の範を見せてもらわなければならないと思います。」との心強いお答えを頂きました。

また、高額薬剤の例外的な価格引下げ問題を取り上げ、我が国経済の牽引役と期待される医薬品産業の国際競争力の低下につながりかねないこと、流通業界、医療機関においては資産価値の突然の低下を招くことなどの問題点を改めて指摘し、薬価制度について厚生労働大臣の主体性を持った取り組みを要請しました。この他、ハーボニー配合錠の偽造品問題に関して、同様の事案が二度と繰り返されることの無いよう、制度的な検討も含め早急な対応をお願いしました。

6日の「臨床研究法案」の審議では、ディオバン事案の地裁判決に対する厚

生労働大臣の受け止め方をお尋ねして質問に入り、法案事項の個々の疑問点を確認し、最後に厚生労働大臣から「今回の法案により国民の信頼を回復し、イノベーションにつながる臨床研究が盛んに行われるものと期待しています。」との決意を伺いました。

今後とも、薬剤師・薬局並びに医薬品等の生命関連産業の健全な成長に向け、機会を捉えて発信していきたいと思えます。